

《沢田地区自治協議会からのお知らせ》

◎旧沢田中学校の改修工事続報

工事は順調に進み、2月中に終了する予定とのことです。(この広報が手元に届く頃には終了している。)

工事期間中、スポ少の人たちなど、不便をかけたおりましたが、3月5日から体育館で練習ができるとのことです。

自治センターの引越しは3月下旬を予定しておりその後、新しいところで業務を行うこととなります。



◎現在の沢田児童館、自治センターの跡地利用について

1月31日に開かれた理事会において、このことが協議され、次のことを町に要望することになりました。

○ 宅地として整備し、子育て世代の方の定住促進につながるような施策を講じていただきたい。

《ボランティア募集のお願い》

2月23日に白鳥の会全体会が開かれ、平成30年度も継続して会を実施することになりました。

高齢化に伴い、ボランティアを続けられない方が出てきていますが、代わりの方が入ってこない状況です。

介護予防の観点からも、白鳥の会は大きな役割を果たしていると思われまます。

時間に都合のつく方の参加をお待ちしております。

関心のある方は自治センターまで連絡をお願いします。



昨年8月の白鳥の会から

【3月の行事予定】

(2月23日現在)

| 日 | 曜 | 行事名 | 日 | 曜 | 行事名 |
|----|---|--|----|---|--------------------------------|
| 1 | 木 | 石陽吟詠会 19:00 ヨガ教室 19:30 | 13 | 火 | 白鳥の会 9:00 書道教室 B13:30 |
| 3 | 土 | 基盤整備換地委員会 9:00 | | | 華の会 19:00 |
| 4 | 日 | 〃 | 14 | 水 | 沢田太極拳愛好会 |
| 6 | 火 | フラダンス愛好会 10:00 書道教室 A13:30 白鳥の会事前会議 (3班) 19:00 | 15 | 木 | 石陽吟詠会 ヨガ教室 |
| 7 | 水 | 民生児童委員方部会 9:30 沢田太極拳愛好会 13:30 農業普及所 15:00 婦人会役員会 19:00 | 17 | 土 | 沢田ミニバス 9:00 共楽セミナー閉講式 19:00 |
| 8 | 木 | 石陽吟詠会 ヨガ教室 | 18 | 日 | 中央区総会 9:00 |
| 10 | 土 | 長寿会役員会 10:00 婦人会役員会 18:00 | 20 | 火 | フラダンス愛好会 |
| 12 | 月 | 共済組合 19:00 | 21 | 水 | 沢田太極拳愛好会 |
| | | | 22 | 木 | 石陽吟詠会 ヨガ教室 |
| | | | 23 | 金 | 書道教室 A |
| | | | 27 | 火 | 書道教室 B15:00 |

※月末に、自治センターの引越しが予定されています。25日以降の行事の場所は後日連絡します。

《沢田まちづくり委員会からのお知らせ》

◎桜の古木の再生の取り組みについて

まちづくり委員会では、この度、古内山神地区にある桜の古木の再生に取り組むことになりました。

この桜は、エドヒガンで樹齢約130年と推定されています。

強風により枝が一部折れているところがあります。また、幹が空洞になっているところがありますが、近所の方によりますと、色が濃くそれはたいへんきれいな桜ということです。

これまで藪に覆われていて見え難いところもありますが、周りの木を伐採するとともに藪も取り払いましたので、ことしは是非お出かけください。

これから、時間をかけて再生に取り組んでいく予定です。



.....
沢田郷土読本から今回は「第七話 名所・古跡を訪ねて（一）一夜館」を紹介します。

御齋所街道を右に折れて、黒土の小みちをたどる。

その小みちを更に左に行って、教えられたままに野ばら、小笹を押し分けて行く。暫くして、笹の間から顔を出して見ると、ああ、そこには夕陽を浴びて、薄紫にけぶる那須の山がその雄大な姿を私の前に現しているではないか。

歌いつかれた天女が、この山に舞い下りて紫の羽衣をふわりとかけたような気高い、そして優しいその姿、私は、これまでにこんな美しい那須の山を見たことがなかった。

山の麓から直ぐ足下まで数里の間は、阿武隈川の流域で、その西岸には美しく並んだ稲田がさえぎるものもなく打ち続き、遠くの方で働いている農夫は、ぽっちりと虫のように小さい。

此の田の真中を縦に阿武隈川が、銀色の蛇のようにうねうねと横はって、南を赤羽、北を滑津と分けている。

遠くの家々からは、夕餉の煙がのぼる。山も川も、人も家も、まるで一幅の絵のようだ。白河一帯を一目に見る要地だ。こんな美しい景色がこんな藪影にかくれていようと誰が考えよう。

後三年の役の折、鎌倉権五郎景政が義家の命により、一夜のうちにここに館を造ったと言いつたが、よい位置である。

さすが義家が選ぼうとした土地である。私はひとりで感心してしまいました。

今は、館らしい跡もないが、北西は絶壁になっていて、さすがその当時を思わせるものがある。

鬼をもひしぐばかりの髭武者の中にまじった紅顔の美少年、十七歳の景政の姿は如何に勇ましく、如何に美しかったことでしょうか。

彼の武者振りは、殊に見事なものであった。或る日の戦に左の目を射ぬかれた彼は、矢をそのままに七日七晩敵を追い求めて漸くその首をあげることが出来た。

本陣に帰った景政は、いよいよ矢を脱こうとしたが、ぬけない。一人の武士が、彼を仰向けにして、顔に足をかけて矢を脱こうとしたとき、彼は傷の痛手も忘れて「武士を辱めるのも甚だしい」と、ふんぜん怒りたるままその友を切った。

その元気の盛んなこと、自らを重しとすることの如何にあつたかが知られるのである。

折しも月は、藪の陰からぽっかりと顔を出した。

「おお月よ」お前ばかりはその当時の様を知っていることであろう。

私のために、千年の昔を語ってはくれまいか。